第２学年　国語科学習指導案

平成２１年９月１９日（土）
第２学年１組４０名
指導者　大塚健太郎　（担任）
　　中山美由紀　（司書）

１．単元名　　おにさんこちら　手のなるほうへ

２．単元の目標

○鬼の出てくる本に興味をもち、いろいろな本を探して読むことができる。（関心・意欲・態度）
○鬼の様子や生活を想像しながら、鬼の出てくる本を読み広げることができる。（読むこと）
○索引や目次の働きを知り、それを利用したり、読み集めた鬼の本を整理したりすることができる。（読むこと）

３．テーマとの関連

まず、今回のテーマを次のようにとらえて考えてみたい。

持続可能な未来をひらく子どもたちが「読書」に親しみ、言葉の力や豊かな想像力を身につけるために、学校教育ではどんな手だてが必要なのか。

このようにとらえるならば、「鬼」というテーマに沿って本の世界を読み広げていく本単元では、ブックトークという手段を司書が用いてスタートするため、選んでいる本に偏りのある子どもたちの「読書」生活を広げていく案内役となっている。また、テーマ読書という体験をすることで、将来的には自分からキーワードを見つけ、情報を再構成する力ともなってくるであろうと考えている。

次に、子どもはブックトークを元に読み広げた本の中からお気に入りの本（鬼）と出会い、その鬼を紹介するために言葉を探したり選んだりしながらその鬼に愛着をもつことになり、お話では書かれていない鬼の生活や様子などまで、想像を広げていくこととなる。そこへ図鑑の索引と目次の機能に出会わせることで、それは、たくさん集まった情報を分類整理する手段としてとても有効で合理的な手段であることを体感することとなる。つまり、情報・メディアを活用していく態度にもつながっていくと考える。

４．単元設定の理由

児童の半数以上が物語が好きと答え、半数弱が説明文が好きと答える本学級の児童は、週に一回の図書の時間を１年生から経験し、毎週司書の読み聞かせを聞き、自分で読むことも好きだが読み聞かせでお話を聞くことにも慣れ、本好きのクラスとして育ってきた。また、国語の学習を振り返れば、「ひっこして　きた　みさ」では、人物関係を丁寧に押さえていくことで、場面の移り変わりや登場人物の行動や気持ちに想像を膨らませて読む学習をした。次に、「すみれと　あり」では、順序を表す言葉に着目して場面の移り変わりと因果関係を読み、「鳥の　ちえ」では、説明事項が繰り返される文章構成を活かして次の内容を予想しながら読むことに挑戦してきた。

一方図書の時間では、同じテーマでも読み比べをすると一方に書いてあることがほかの本に全て書いてあるとは限らないこと、同じ内容でも違う表現で伝えていることなどを学習した。また、日常に本の貸し借りをはじめとする図書室の利用の習慣がついていて、生活科の野菜の栽培や学級で飼う動物の知識を得るために、図書館を利用するとことを知っている子どもたちである。中には当然のように図鑑を活用する子がいるまでに育ってきた。

そこで本単元では、司書が図書の時間の日常的に行っている読み聞かせをブックトークに変更し、鬼をテーマに、物語だけでなく歴史、古典、図鑑などに選書の視野を広げることで、物語好きの子どものみならず、説明文好きの子どもにとっても身近だが、意外と知らない鬼の世界に想像を膨らませ、楽しみながら読み進めることができる子を目指したいと考えた。また、３学年で行う本格的な図鑑の学習の事前活動として、「目次」と「索引」の機能を知り、読んで膨らませた鬼の像をいくつかのカテゴリーに分けて、まとめていく作業を体験しながら、図鑑の仕組みをつかんでもらいたいと考えた。

５．学習指導計画（全８時間）

第１次　司書の読み聞かせを聞き、鬼の世界に興味を広げる。　２時間
第２次　鬼の出てくる本を読み、鬼の様子や生活を想像し、紹介し合う。　３時間
第３次　目次や索引の良さを体感しながら鬼の図鑑をクラスで作る。　**（本時２／３）**３時間

６．本時の指導

（１）本時のねらい

・紹介する鬼を名前や様子を頼りに目次や索引別に並べ、図鑑の機能を理解することができる。
・鬼の図鑑を作るには、どのように分類して目次を作ると分かりやすいか考えることができる。

（２）本時の展開

過程	予想される児童の実態	○指導上の留意点　☆評価
導入	１．司書の読み聞かせを聞く。 ・「だいくとおにろく」	○鬼の絵と名前を書いた短冊を持って入場する。 ○手遊び歌でお話の世界に切り替える。
	一人１ページになって「鬼の図鑑」を作ろう。	
展開	２．索引の機能を確認し、「鬼の図鑑」の索引順に鬼の絵を持って並ぶ。 ・図鑑の後ろにあります。 ・50 音順に並んでいます。 ・名前から探すことができます。	○一人が１ページとなって「鬼の図鑑」を作ることを伝える。 ○頭文字を基準に並ぶ。 ○索引順に並べたら確認の写真を撮る。 ☆索引順並べるように隣の友達と確認して、自分の載るページの場所を確定しているか。
	３．目次の機能を確認し、「鬼の図鑑」の目次を作るためのカテゴリーを決める。 ・図鑑のはじめに出ています。 ・似ているものが集まっています。	
	・鬼の心で分けたらいいです。 ・外見の方がいいです。 ・色はどうですか。 ・住んでいるところがいいです。	☆「鬼の図鑑」として分かりやすい目次のカテゴリーを考えているか。 ○カテゴリー分けの項目を決める段階で優劣がつかない場合は、司書の意見を聞く。 ・「オニの生活図鑑」が、住んでいる場所で分けてあることを知らせる。
	・山に住んでいるから、力持ち順がいいなあ。 ・地獄に住んでいるから、怖い順にしようよ。 ・体の大きさで居そうな場所が分かるから背の順がいいよ。 ・50 音順が誰でも分かるよ。	○カテゴリーの中での順番は、グループに任せ、決定できないグループは 50 音順とする。 ○できあがった目次をカテゴリーごとに写真を撮る。 ☆カテゴリーに合わせて仲間を見つけ、自分の載るページの場所を確定しているか。
終末	４．できあがった「鬼の図鑑」のページを確認する。 ・目次が前で索引が後にあります。 ・表紙と裏表紙がつながっています。 ・できあがった図鑑は図書館に置きたいです。	○事前に作っておいた「鬼の図鑑」の表紙、裏表紙に合わせて、索引と目次の写真をプロジェクターに映す。 ○製本の仕方を知らせる。